

アートとウェブの謎を
解き明かす86日

art
live

GEIDAI COI

OTEMACHI ART LABORATORIES
powered by GEIDAI COI

第1期企画

バベルの謎

-アートデータサイエンスの創造-

THE MYSTERY OF BABEL

開催期間 ▶ 2019年4月4日(木)
-6月28日(金)

時間 ▶ 11:00~20:00

場所 ▶ 大手町プレイス・ウエストタワー地下2階



住所・アクセス ▶ 〒100-0004
東京都千代田区大手町2丁目3-1
東京メトロ大手町駅A5出口徒歩1分
JR東京駅丸の内北口徒歩7分

主催 ▶ 東京藝術大学社会連携センター

共催 ▶ NTT都市開発株式会社

ディレクター、キュレーター ▶ 伊東順二(東京藝術大学社会連携センター 特任教授)





バベルの謎

-アートデータサイエンスの創造-

偽典の「ヨベル書」によれば、神はノアの息子たちに世界の各地を与え、そこに住むよう命じていた。しかし人々は、新技術を用いて天まで届く塔をつくり、シエムを高く上げ、人間が各地に散るのを免れようと考えた。神は降臨してこの塔を見「人間は言葉が同じなため、このようなことを始めた。人々の言語を乱し、通じない違う言葉の話させるようにしよう」と言った。このため、人間たちは混乱し、塔の建設をやめ、世界各地へ散らばっていった。

バベルの塔は1563年から65年に書かれた大バベル、小バベルの2枚の傑作絵画で有名だが上記のように人間が集合して神の域に達しようと奢った考えを懲罰するために神がこの塔を壊し、人類を様々な地域に分け、言語を違えて散らばることを策した物語である。しかし、その説には古来から様々な異なった解釈がある。

ブルーゲルの制作意図がどのようなものであったにしろ、彼がこの傑作を残した故に人類は数百年の間旧約聖書に残された神話の真意を測ろうとさまざまな思考、調査を繰り返してきた。芸術がもたらす意味とは作品そのものの以上に技術と智慧の粋を凝縮することによってあぶり出される疑問や問題提起の創造にあるのではないだろうか？

そこで今回、芸術作品が生み出した疑問への問題解決を、人類が生み出した新たなバベルの塔である、インターネットを駆使して迫るとともにそこに結集されている人類の智慧を視覚化することによって、旧約聖書によれば言語や地域が個々によって違えられた人類が、実はその後も同時進行的に建設的な努力を共有している、ということを実証しようと思う。ここでは毎日、ネット上に集められたバベルの塔への疑問と、その回答への努力が螺旋状の迷路の中で視覚化され、その数百年の過程の中で生み出されたアートコンテンツがライブで発信されることになる。訪れる方々は無限の情報の海の中で、芸術作品が灯台の灯火のように出口を示す瞬間を体験することになるだろう。

企画、構成、演出：伊東順二
Director, Curator: Junji ITO



伊東順二
Junji ITO

東京藝術大学 COI 拠点文化外交・アートビジネスグループ特任教授。美術評論家。アート、音楽、建築、都市計画など分野を超えたプロデュースを多数手がける。1995年「ベニス・ビエンナーレ」日本館コミッショナー。2005年～13年富山大学教授。08年～12年「金屋町楽市」実行委員長。前長崎県美術館館長。パリ日本文化会館運営審議委員。富山市ガラス美術館名誉館長など。

企画、構成、演出：伊東順二

クローン動画監修：宮廻正明（東京藝術大学名誉教授）

動画制作：東京藝術大学COI拠点文化共有グループ

動画監修：大石雪野（東京藝術大学COI拠点特任研究員）

空間デザイン：

佐藤研也（東京藝術大学社会連携センター 特任研究員）

制作スタッフ：

長谷川欣則（東京藝術大学社会連携センター 教育研究助手）、

前久保諒（東京藝術大学社会連携センター 特任助手）

制作協力：池上留理子（株式会社ジェクト）

音響環境デザイン協力：

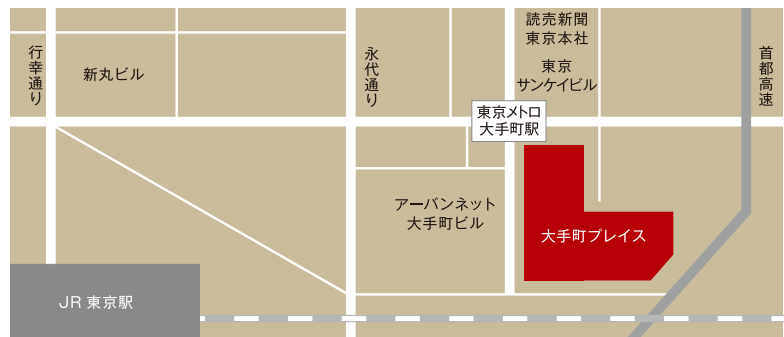
日山豪（株式会社エコーズプレス）

web 協力：

新田実（株式会社ジェットセット）、

製作：

東京藝術大学 COI 拠点文化外交・アートビジネスグループ



お問い合わせ▶

東京藝術大学 COI 拠点文化外交・アートビジネスグループ 050-5525-2403

開催期間：2019年4月4日～6月28日（金） 場所：大手町プレイス・ウエストタワー地下2階